

令和5年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立静浜幼稚園下藤分園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

<評価方法>

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり<A…そう思う(4点)/B…どちらかといえばそう思う(3点)/C…どちらかといえばそう思わない(2点)/D…そう思わない(1点)>
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「心も身体も元気な子」に近づいてきている。	
心保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.7 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会(参観日等)を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人權を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.7 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくて説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせて、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える(遊び用具や掃除用具の片付け等)ことを促す工夫をしている。		
31 時間や提出物の期限を守っている。		
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
援助導に計つ画、いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.6 /4
	34 子ども一人一人の実態(発達の状況や興味の対象等)を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価(評価項目の達成及び取組状況)
4~3.1	A…十分達成されている
3~2.1	B…達成されている
2~1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1~0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.7 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

総合評価Aをいただき、嬉しく思います。日頃より、保護者の皆様に園の教育に対する御理解と御支援をいただき感謝しております。園目標「心も身体も元気な子」重点目標「夢中になって遊ぶ子」を目指し、日々保育に取り組んでおります。幼稚園が安心して、夢中になって遊ぶ中で様々なことを学んでいることを喜ばしく思います。また、今年度は安全管理の徹底について、手紙を配付したり、集会で説明をしたりして、保護者の皆様に理解を得るよう努めました。不審者対策のための施錠や確実な引き渡しのための約束事など、御理解と御協力をいただけていることに感謝します。引き続き危機管理や防災教育にも取り組み、安全な園運営に努めます。

・本年度努力した点、改善した点

昨年度に引き続き、「あそびのちず」（保育ウェブ）を活用し、子供たちが自分たちの遊びを振り返ったり、必要なものや今後の展開について考えたりすることに役立てました。また保護者の皆様にも遊びの様子や遊びの中で育てているものが伝わったことで、家での会話のきっかけにしたり、使えそうな材料を家から持ってきたりするなど、遊びに繋がりができました。「今日はこれをして遊ぼう。」と目的をもって、楽しみに登園してくる姿が見られました。
今年度は園の普段の様子を知ってもらおうと、保育参加を計画し全保護者に体験してもらいました。参加後の感想には、保育参観とは違い、日常の園生活の中での我が子の様子や友達関係を知ることができ、良い機会だという意見が多くありました。来年度も継続して行いたいと思います。

・苦心した点、反省すべき点

保護者同士の交流の場は少なかったように感じます。園児数、家庭数ともに少ないため、行事の準備、運営、片付けは保護者の協力なくしてはできません。全保護者の協力での行事開催となるため、そういった機会を生かし、交流できるようにしています。職員が保護者の皆様の間に入り、橋渡しをしながら繋いでいく工夫をし、今後も保護者同士の交流を深めていきたいと思っています。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

少人数の良さを生かし、遊びを通じた異年齢での関わりや、全職員で全園児を支える保育を継続します。今年度の重点目標『夢中になって遊ぶ子』に近づく育ちが見られているので、来年度は、対話に着目したいと考えます。夢中になって遊ぶ子を土台に、『自分の思いを出して遊ぶ子』を目指します。年齢や発達に応じた「その子らしさ」で言葉や仕草、表情で表現する姿を大切にしていきます。子供の思いや気づきを見逃さず、様々な言葉掛けで豊かな言語を育んだり、うまく表現できなくても自分の言葉で話すことを経験したり、対話しながら生活や遊びを楽しめるような保育をしていきます。